

福島第一原子力発電所現地確認報告書

1 確認日

令和6年3月8日（金）

2 確認箇所

測定・確認用設備（K4タンクエリア）、移送設備（多核種移送設備建屋、ALPS処理水移送配管）

3 確認項目

- ・多核種除去設備等処理水の第4回放出の状況
- ・K4タンクエリア堰拡張工事の状況

4 確認結果の概要

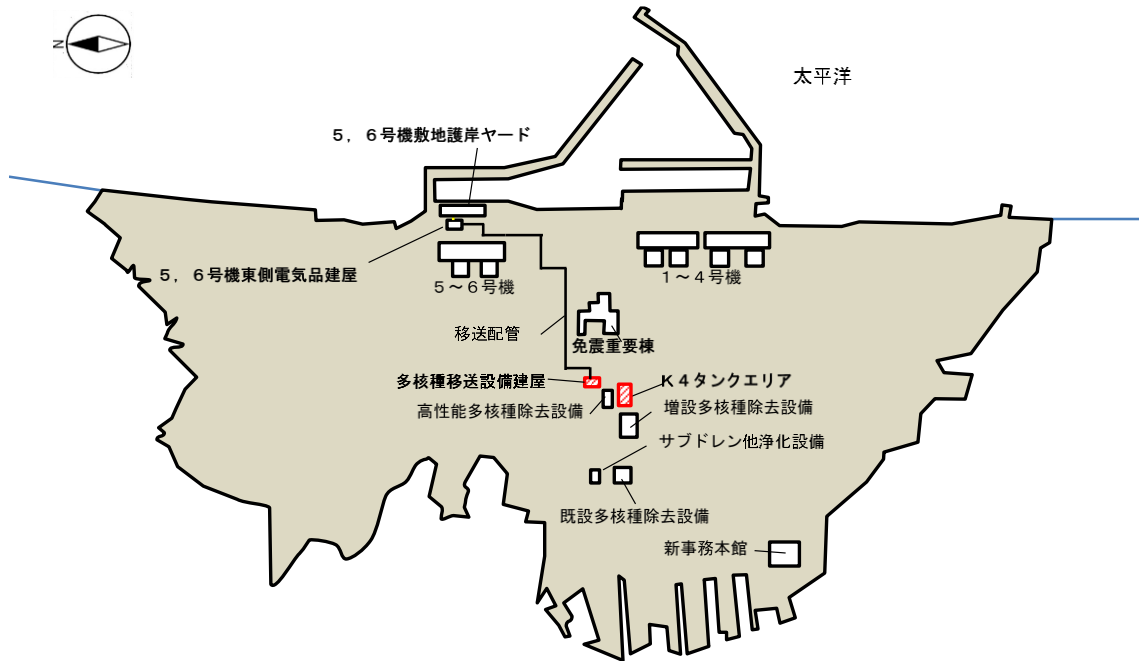
多核種除去設備等処理水（以下「ALPS処理水」という。）の第4回目の放出が、2月28日から開始されていることから、ALPS処理水希釈放出設備（移送ポンプ、配管）の状況を確認した。

また、K4タンクエリアの堰拡張工事^{※1}が進められていることから、その状況を確認した。（図1）

- ・ALPS処理水を移送するために運転している処理水移送ポンプ（B）を確認したところ、異音、異常振動、異臭、漏えい等の異常は認められなかった。（写真1）
- ・ALPS処理水移送配管を確認したところ、漏えい等の異常は認められなかった。
- ・ALPS処理水移送配管の途中に設置されているベント弁の防水カバー内に雨水が浸入した事象^{※2}（令和5年9月6日発生）を受けた対応として、防水カバーの外側にさらに仮設のビニールシートを被せる処置がされていたが、今回確認したところ、仮設のビニールシートが撤去され、常設のシートが取り付けられていた。（写真2）
- ・K4タンクエリアでは、堰拡張箇所のアスファルト撤去が進められていた。（写真3）

※1 堰の拡張工事：ALPS処理水希釈放出設備設置に係る事前了解に際して福島県原子力発電所安全確保技術検討会がとりまとめた8つの要求事項を受けて、東京電力が追加の安全対策として進めている。地震等により、タンクとタンクを繋ぐ連結弁が破損してALPS処理水が大量に漏えいした場合に備え、堰の貯留可能量を増大させるための工事。

※2 防水カバー内への雨水浸入：ALPS処理水移送配管には、配管内の水張りをする際に空気を抜くためのベント弁が設置されており、それぞれに漏えい検知器が取り付けられている。第1回目のALPS処理水放出中の9月6日に漏えい検知器が発報したが、雨水の浸入によるもので、ALPS処理水の漏えいはないと判断された。



(図1) 福島第一原子力発電所構内概略図



(写真1-1)
処理水移送ポンプ (B) の状況①



(写真1-2)
処理水移送ポンプ (B) の状況②



(写真 2-1)
ベント弁の雨水浸入防止対策の状況
(令和5年9月8日撮影)



(写真 2-2)
ベント弁の雨水浸入防止対策の状況
(今回撮影)



(写真 3-1)
K4タンクエリアの概観
(南西側から撮影)



アスファルトの撤去範囲

(写真 3-2)
アスファルトの撤去状況①
(南西側から撮影)



アスファルトの撤去範囲

(写真 3-3)
アスファルトの撤去状況②
(北側から撮影)

- 5 プラント関連パラメータ確認
各パラメータについて、異常な値は確認されなかった。